

令和2年度 学校評価報告書

園名	三田 幼稚園
----	--------

1 教育目標

「げんきな子 考える子 やさしい子」
 ・活動を楽しみ、自己を発揮できる幼児を育てる
 ・自分なりの目当てをもって、粘り強くやりぬく幼児を育てる
 ・思いを伝えあい、相手を受け入れられる幼児を育てる
 (八景中学校区共通目標)
 人も自分も学校(園)もふるさと大切にする子
 ～自分を大切にでき、自分のことは自分でしようとする子～

2 今年度の重点目標

「夢中になって 遊び込む子の育成」
 ～子どもの「やってみたい」「もっとやりたい！」
 を支える援助や環境構成を探る～

3 総合的な自己評価

今年度より3歳児保育が実施され、3歳から5歳の3年間の子どもの発達や育ちをつなぎ支えながら、園の教育目標にある子ども像を目指して、教育・保育実践に取り組んだ。子どもの遊びに向かう意欲や好奇心は、やがて目標意識をもち、友達とかかわり合って考えたり工夫したりを繰り返す姿へとつながった。人とかかわる中で、他者を思いやったり自己肯定感を高めたりするなど、様々な育ちの姿が見られた。このような姿は、見えやすいものと見えにくいものがあり、様々な経験の積み重ねによって育ちの芽が育まれていくことを、園の取り組みと合わせて保護者へも発信し、理解と関心を得ることが大切である。今後も、保護者や地域の方々の協力を得ながら、多様な体験の工夫、安心・安全な園環境などに努め、保育の充実を図っていきたい。

4 総合的な学校関係者評価

子ども達が楽しく幼稚園に通い、自分なりのやりたいことや楽しみをもって園の遊びや生活に取り組んでいることに対する評価結果(100%)がすべてを表している。友達と思いを伝え合い、相手を受け入れられる仲間とのつながりがあるからこそ、園生活が楽しいと感じているのであろう。多様な経験の積み重ねにより、考える力や発信する力、自分を信じる自信がついており、園の教育目標が子どもの育ちに繋がっていると感ずることができた。今後も、改善の方策を実施され、さらに子ども達が楽しく幼稚園生活を送り、これからの社会を生き抜いていくたくさんの力をつけていくことが出来るよう、園が家庭や地域に働きかけ、共に手を携えてみんなで子どもの成長を育まれることを願う。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	幼児が身近な環境に主体的にかかわり、自らの興味関心を広げ、学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実 ・心の安定を図り、園生活を楽しみながら自己発揮できる居場所づくりやきめ細やかな援助に努める ・好奇心や探究心をもち、遊びや生活の中で目標をもったり挑戦したりして、夢中になって遊び込める環境や体験の工夫 ・共に育ち合える3歳児4歳児5歳児の交流の工夫	幼児が意欲的、主体的に遊びや生活に取り組む、園の教育方針に掲げる子ども像として表れている。また、それにつながる育ちの芽を感じられると評価いただいた。	これまでの取り組みで培ってきた5歳から受け継がれてきた園の文化を大切に、さらに子ども達の学びに向かう力を豊かに育む保育内容の充実に向けた取り組みを進める。 3歳から5歳の3年間の育ちと学びを保障していく。	教職員が子どもの育ちに願いをもってかかわり、子どもが自らやってみようと動き、学んだことを認めることで、子ども達の自尊感情が育っていく。一人一人に応じた援助により、安心できる居場所となっている。
	健やかな心と体をつくる取り組みの工夫 ・「わくわく体操」を基盤とした体づくりの推進 ・芝生園庭や園内環境を活かした動きの場づくりの工夫	「わくわく体操」をはじめ、体を動かして遊ぶ活動を意識的に取り入れた結果、子どもが体を動かすことが好きになった。	引き続き、年間を通して体づくりに取り組めるよう努めるとともに、保護者に対して取り組みの具体や意義などを発信していきたい。	自分から進んで体を動かし、目標に向かって挑戦したり戸外で十分に遊んだりする取り組みを今後も継続していただきたい。
子育て支援	親同士、子ども同士の交流の場としての役割や機能の充実 ・安心して集える場づくりや仲間づくりと情報発信の工夫 ・2, 3歳児と園児との交流内容の工夫	園児中心の園庭開放となったが、親子で楽しめる場の工夫を行うことが出来た。	未就園児親子に繋がり場の場づくりの工夫とともに、子育て相談などの支援も今後検討していきたい。	親子が集える場づくりや親支援の工夫を進めていただきたい。預かり保育へのニーズは、市全体の課題であるが、教職員への負荷がかかり過ぎないように検討を願いたい。
保護者・地域住民との連携	園やふるさとを大切にする心の育成 ・園の取り組みや子どもの育ちの情報発信の工夫 ・地域と連携した体験活動の工夫、様々な交流・連携の推進 ・PTA活動と連動した体験の充実	タイムリーに伝える工夫に努めた結果、保護者の関心を深めることにつながった。地域と連携した体験活動は、可能な範囲での活動となった。	情報発信については、園の取り組みと共に、子どもの育ちなど視点をもって見ていただけるように働きかけを行っていききたい。地域住民との連携については、つながりを深められるようアプローチしていく。	地域住民との連携については、つながりを深められるような方法を工夫し行っていただきたい。保護者への情報発信や信頼関係の構築により、園の教育への関心をさらに深め、みんなで子どもを育てることに努めていただきたい。
保幼小中連携	保幼小中連携の推進と幼小の円滑な接続をめざしての取り組みの推進 ・保幼、保幼小、幼小、幼中など様々な交流機会の工夫 ・保幼小連絡会をはじめ、各校種の職員間の接続を意識した交流連携の推進、中学校区連携推進への参画	交流の方法等、工夫して行ったことを保護者にも発信した。手紙交換や学校紹介、校庭での遊びなどを通して、小学校生活への憧れや期待感をもつことができた。	今年度同様、出来ることを工夫して行いながら、八景中学校区共通の就学前から15歳(義務教育の終わり)までの育ちと学びをつなぐ視点を異校種間で共有し、教師間の連携、子ども同士の交流の充実をめざす。	保幼小の交流や連携が充実していることは、就学に向けて安心できる。今後も、八景中学校区共通目標に向かって、保幼小中連携の充実を図ることが出来るよう努めていただきたい。